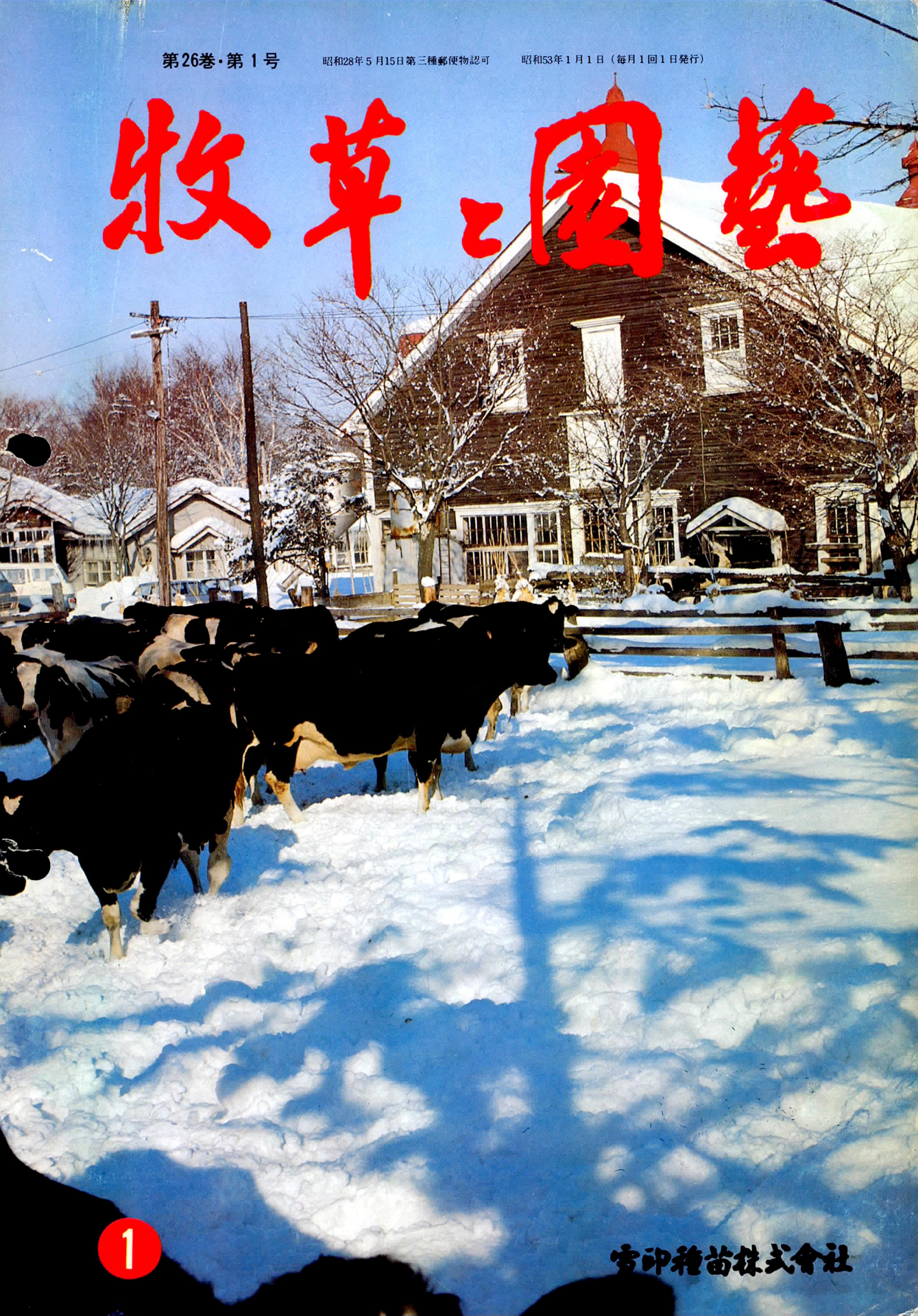
第26巻・第1号　昭和28年5月15日第三種郵便物認可　昭和53年1月1日（毎月1回1日発行）

牧草と園芸



1

雪印種苗株式會社

生きている土

数十億年の昔、地球上には未だ生物の発生はありませんでした。そして「土壌」もなかったのです。やがて水中に生物が発生し、その生物は何万年かを経て岩石に住みつき、岩石の風化と生物の遺体の分解とが繰り返され、また何万年かが過ぎて植物の生育に必要な養分、空気、水を適当に保持するような状態、即ち「土壌」が誕生したのです。

「土壌」は生物によって出来上り、「土壌」としての条件である有機物の蓄積は、すべて生物、主として植物の遺体から生成されました。

植物は太陽の光と熱をうけて「光合成作用」を行ない、空中の炭酸ガスをとり入れて糖分や澱粉をつくり、土壌中からは水や養分を吸い上げて植物体をつくりあげます。その植物体は炭水化物や蛋白質、リグニン、脂肪からなる有機物であり、その遺体や動物に利用された残物は土中に埋れて、土壌微生物により分解され、微生物そのものの遺体と共に土壌中の腐植となり、またそれは植物生育に必要な養分となる——この輪廻を操り返して「土壌」は生長してゆきます。

「土は生きている」とはこのことなのです。

月世界や砂漠の土にはこの輪廻がなくて死んでいます。それは「土壌」になっていないのです。

植物を養う農業は、生きている土即ち「土壌」の上でこそ成り立ちます。

有機物や土壌微生物の活動を忘れた化学肥料一辺倒の農業生産を反省し、草地、輪作、家畜、堆廐肥を活用し、土に生命を吹きこみ、真の「土壌」を作ることこそ、永久農業の基本と言えましょう。

「牧草と園芸」の読者の皆様　明けましておめでとうございます。

新春を迎えて皆様のご健勝とますますのご発展を心からお祈り申し上げますと共に、本年も「牧草と園芸」をご愛読下さいますようお願い申し上げます。

雪印種苗は本年も「技術と誠意」をモットーとして、優れた種苗・飼料の供給に専念し、飼料の確保のお手伝いをすると同時に、草地・輪作・家畜・堆廐肥の輪廻を通じて「生きている土づくり」にもお役に立ち、皆様の経営向上の一助にもなるよう努力いたします。

「生きている土こそ農業の母体」

この言葉を皆様に贈り、新春のご挨拶といたします。

昭和53年元旦

取締役社長　中野富雄